

令和元年度コミュニティ・スクール推進協議会 (オホーツク会場)

日時：令和元年8月26日（月）13:10～16:30
場所：オホーツク合同庁舎 3階講堂
参加者：教育委員会職員 23名
総合振興局職員 2名
教職員など 49名
一般道民、CS委員等 17名 計91名

目的

本道におけるコミュニティ・スクールの取組充実を図るため、講話や事例発表、協議等を通して、制度の適切な理解を図るとともに、コミュニティ・スクールの効果的な運用及び地域との連携・協働体制の確立に資する。

【オホーツク管内の状況について】

オホーツク管内には18の市町村があります。

平成30年度は4市町村でコミュニティ・スクールを導入していましたが、今年度（令和元年度）は、13の市町村が導入しています。

その他の市町村も導入に向けて準備をしているところです。

行政説明「学校と地域の連携・協働」

北海道教育庁義務教育課子ども地域支援グループ主査 吉村公孝



- ・コミュニティ・スクール（以下CS）の制度及び国や道の導入状況
- ・学校運営協議会の役割
- ・新しい学習指導要領とCSの関連
- ・地域学校協働活動について
- ・CSの成果と課題

などを説明し、「地域とともにある学校づくり」の大切さを参加者に伝えました。

キーワード：「地域の子どもは地域で育てる。」
「みんなが教育の当事者です。」

講話「学校運営協議会の効果的な運用に向けて」

北海道CSアドバイザー・伊達市教育委員会参与 櫻井貴志氏



CSの役割を改めて確認しましょう！

○校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。【必須】

- ・第1回目の開催は、3月末から4月初旬が望ましいです。
- ・校長は、誰が読んでも分かるような資料を作成することが必要です。

熟議（話し合い）が大切です！

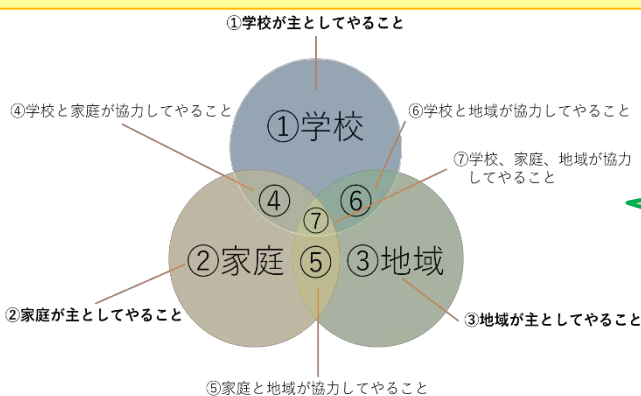
- ただの報告会になってしまわないように。
- 具体的なことが話し合われず、学校が困ってしまわないように。
- 学校と地域でお互いの立場や現状を理解することを大切に。（「何かをすること」が目的になってしまわないように。）

コーディネーターの役割を確認しましょう

○コーディネーターはCSと地域の橋渡し役です。学校のための便利屋さんではありません。

CSは、学校・家庭・地域の役割と、何ができるかを確認する場でもあります。

キーワード：「制度を理解する。」
「学校（地域）の現状を理解する。」
「地域に合った取組にする。」



実践発表「CS の取組状況とその成果と課題」

訓子府町教育委員会管理課長 森谷 勇 氏



教育委員会の立場から、導入方法や現状、今後の方向性などを紹介いただきました。

【訓子府町のCS 組織】

町で1つの協議会を置き、学校ごと（訓子府小、居武士小、訓子府中、認定こども園）の部会を設けています。

【CS の協議】

学校と家庭、地域が目標や課題を共有し、学校支援の取組を検討する場と位置づけています。

部会では学校評価も行っています。

キーワード：

「導入まで何度も話し合う。」

「『訓子府町の子どもを目指す姿』を共有する。」

斜里町立知床ウトロ学校教頭 米澤 秀樹 氏



平成29年度にCSを導入した学校の立場から、取組状況や成果と課題を紹介いただきました。

【斜里町のCS 組織】

学校ごとの単独設置です。

【CS の協議】

4、9、2月の3回実施し、課題を共有して具体的な支援活動、評価、改善策などを話し合っています。

【成果と課題】

特色ある学校づくりが推進されましたが、働き方改革の推進や既存組織の見直しが今後必要です。

キーワード：

「無理せず、できることから、継続性を大切に。」

「連携・協働が目指すものの明確化。」

実践交流・熟議

進行：北海道教育庁オホーツク教育局教育支援課社会教育指導班



グループに分かれて感想交流や情報交換、意見交換を行いました。

【話し合いの視点】

- ・自分の市町村や学校の現状について
- ・ほかの参加者に聞いてみたいことについて
- ・グループ内で出された疑問や不安などについて
- ・今後、大切だと思うことについて

【全体交流】

運営者からグループで話題になっていたことなどを紹介しました。



田中義務教育指導班主任指導主事

- ・CSは『社会に開かれた教育課程』を実現するためのツールであることを実感した。
- ・『熟議』を校内研修でも取り入れた。
- ・地域に合った取組をするために、他地域の『取組内容』よりも『取組方法』を参考として学ぶことが大切だ。などが話されていました。

- ・これから導入するので、まだ分からないことが多い。
- ・ほかのまちのCS組織編成やコーディネーターの人选の仕方を知りたい。
- ・制度を理解し、関わる人すべてでCSのねらいを共有することが大切だと思った。などが話されていました。



岩淵高等学校教育指導班主査

Q&A コーナー

参加者が説明や講話、実践発表を聞いて質問したいと思ったことを用紙に記入し、会の終わりに講師や実践発表者の方々から回答を得る場を設けました。

Q：道立高等学校の導入に向けた留意点は？

A：道立高等学校がCSを導入するには一定の条件を満たす必要がありますが、今年度はその条件が緩和される予定です。【8月30日に要件を緩和する通知がありました。】

Q：学校運営協議会の委員はどのような方が適任でしょうか？

A：委員の選定に当たっては、校長は教育委員会に意見できるとされています。校長が地域の方々をよく見て人選することが大切です。

キーワード：「CSの推進・継続のコツは、学校と地域の実情をお互いに理解し、地域に合った取組を構築していくことです。」

～御出席いただいた皆様方、活発な情報交換・意見交流をいただきありがとうございました。～